

「生誕130年記念 高島野十郎展」では、独学で油彩を描いた孤高の画家、高島野十郎(たかしま・やじゅうろう 1890-1975)を紹介し、野十郎は、ただ一本の蠟燭などに「写実」を追求する魂を込めました。昨年の生誕130年を記念して、新発見作品を含む90点によって、旅の足跡をたどるなど、新たな高島野十郎像に迫ります。今回は、今から100年前の大正時代にさかのぼって、野十郎青年の「めざめ」について解説します。

① 野十郎青年の自画像

今の福岡県久留米市に生まれた高島野十郎は、兄で詩人の宇朗(うろう 1878-1954)が同郷の画家、青木繁と友人だったこともあり、10代から油彩にあこがれ、福岡県立中学明善校在学中から描き始めます。そして東京帝国大学農学部水産学科を首席卒業後、絵筆一本の道に進みました。環境や心境にどんな変化があったのでしょうか。《傷を負った自画像》は大学在学中に描かれました。首と脛の生々しい傷が事実なのか不明ですが、むしろこの姿を描き残さずにいられない心の傷がしのぼれます。前途有望の野十郎が、学究の道を捨て絵に進むきっかけとなった出来事を描いたのかもしれませんが、29歳の《絡子をかけた自画像》は、禅宗の小さな袈裟、絡子(らくす)をまとった姿。仏教に心を寄せる信仰告白です。この年、坂本繁二郎や古賀春江など久留米出身の在京画家たちと交流しますが、ほどなく離れています。直後に描かれたこの自画像は、印象派の光にひかれ翌年渡欧する8歳上の坂本や、油彩を始めたばかりで前衛画家を目指す5歳下の古賀とは、別の道を歩む決意表明でしょう。対象をみつめて描くことと、みつめられ描かれることが一体の自画像に、写実への信念を込めました。また仏教に託して描くことは、対象の再現にとどまらず、写実が心の表現であり、修養でもあるという信仰告白にほかなりません。

② 時代の中の野十郎

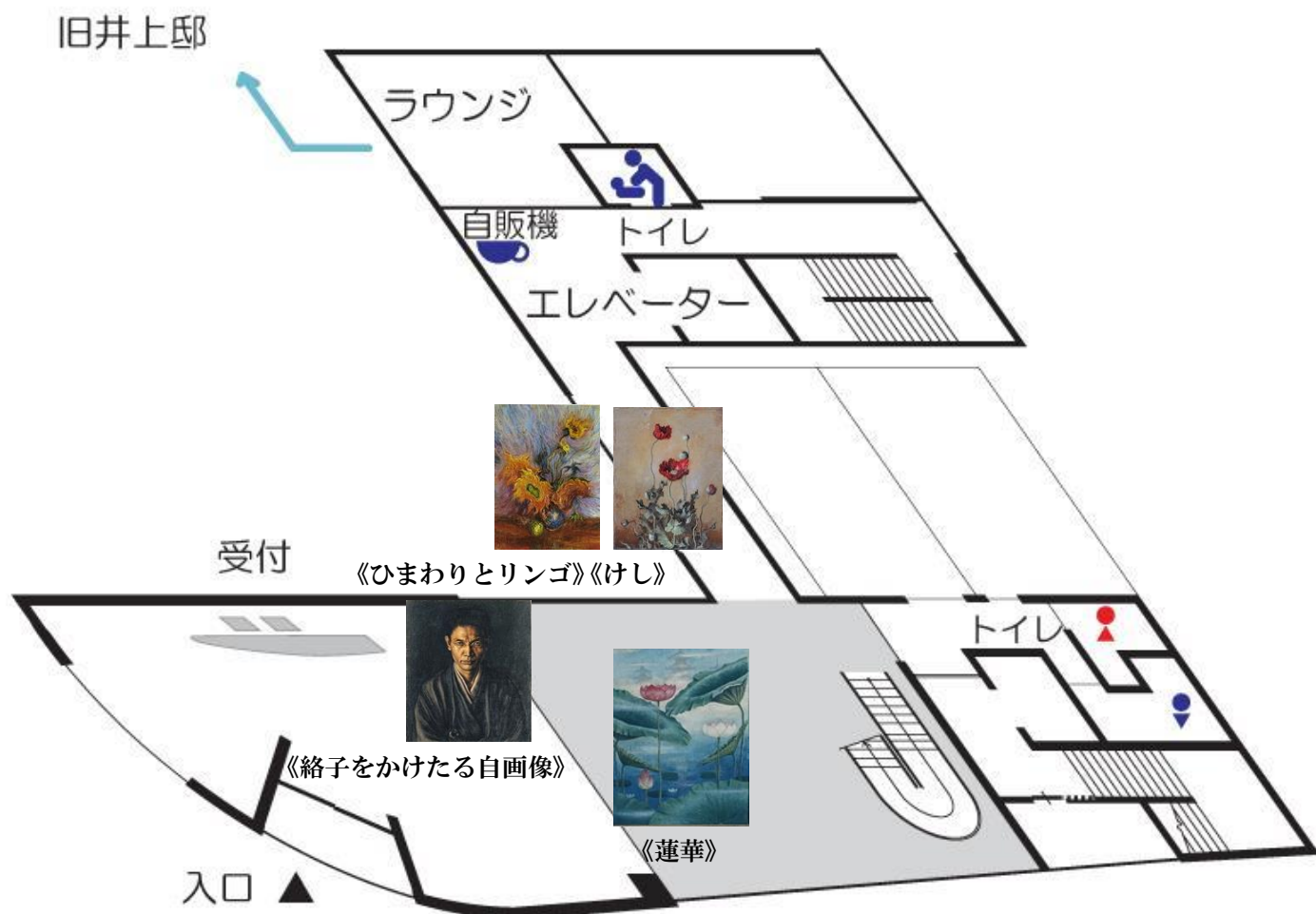
生涯好んだりんごを描く33歳の《りんごを手にした自画像》は同時代をしのぼせる自画像。この時代、主に美術雑誌『白樺』を通じ、りんごを主題にした二人の画家、ポール・セザンヌと岸田劉生が多くの日本人を魅了します。野十郎にも1歳下の岸田劉生と通じる画風があります。白樺主催美術展覧会や劉生らの草土社と同じ会場で個展を開いた野十郎は、彼らの絵を見たと思われます。北方ルネサンスの画家、アルブレヒト・デューラーにひかれ写実に取り組む共通体験も『白樺』に由来します。《絡子をかけた自画像》も《りんごを手にした自画像》も、デューラーの自画像に似るのはそのためです。またセザンヌと同じ印象派以後の画家で、『白樺』で人気を二分したフィンセント・ファン・ゴッホからも、野十郎は影響を受けました。独学だからこそさまざまな展覧会や、美術雑誌の複製図版を通して、積極的に同時代を吸収する多感な青年像がしのぼれます。現在知られる野十郎の自画像は4点。もう1点、40代後半の《煙草を手にした自画像》は、ヨーロッパからの帰国後描いた自画像です。2階第2展示室にありますので、どんな心が読み取れるか想像してはいかがでしょうか。

③ 花へのまなざしのうつろい

野十郎はめざす写実を「花一つを、砂一粒を人間と同物に見る事、神と見る事」と記します。花を描く作品を通して青年時代を振り返ってみましょう。14歳頃の《蓮華》では風景写生にとどまらず、幻の塔や蓮を通して浄土を描こうとしています。現実をみつめつつ、心の世界を重ねているのです。10代の野十郎を文芸のみならず仏教へも導いた兄、宇朗とともに地元の寺で座禅を組んだと伝えられます。20代の《ひまわりとリンゴ》には、ひまわりという主題はもちろん、うねるタッチや燃える背景にゴッホの影響を感じます。1921年には白樺美術館第1回展覧会で、日本で初めてゴッホの《向日葵》(1888年作、戦災で焼失)が展示されたので、きっと見たことでしょう。『白樺』には複製図版入りでゴッホの人生が紹介され、青年たちの心をとらえました。ともに写実に向かう同時代画家たちも、最初は印象派以後の画家たちにみずからを重ね、生の感情をキャンバスに塗り込めます。好きなりんごをひまわりに描き添えたのは微笑ましいですが、注目したいのは背景のタッチ。生涯を通じ主題と変わらない密度で背景を描くまなざしが、ここに芽生えたことを伝えます。35歳の《けし》は、忠実な写生に見えますが、花も茎も葉も不自然なほどうねり、上へ伸びるさまが描かれます。背景の壁にも丹念にタッチを重ねます。やがて渡欧するまでの青年時代、風景画にも同じうねりが強く現れます。野十郎は写実をめざしながらも、タッチとイメージにうねるような絵筆を振るうゴッホにならい、うねるイメージで揺れる心模様を描いたのではないのでしょうか。

「めざめる野十郎」
展示室のご案内

1階



《傷を負った自画像》《りんごを手にした自画像》

